

感謝状をいただきました

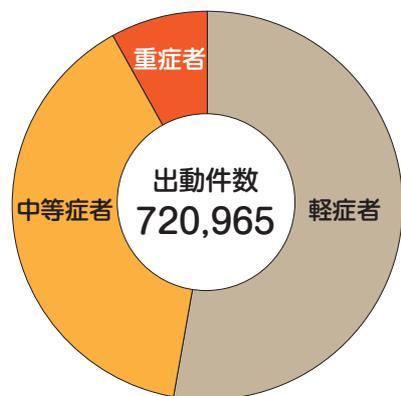
外来看護師長 粕谷 美貴子



当院は二次救急医療機関として、夜間休日を問わず 365 日救急車の受け入れを行っています。今年度の救急の日である 9 月 9 日に、東京消防庁より多年にわたる救急行政への積極的な協力と、救急業務の充実発展に貢献したことを評価され、当院の救急担当を代表して感謝状をいただきました。

2020 年度のデータですが、東京都での救急出動件数は、720,965 件。うち軽症者が全体の 52.7%、入院を必要とする中等症者は 39.2%、重症者は 7.3%でした。二次救急医療機関では軽症と中等症の患者の対応が可能です。つまり二次救急医療機関は全救急要請の 90% 近くを対応する役割を担っていることになります。

このような状況の中、武蔵野陽和会病院は年間約 1,000 件の救急車を受け入れています。平日の日中は専門医により精密検査を行い、病名を明らかにし、緊急度や重症度により緊急入院や転送の対応を行っています。夜間休日においても、限られた検査で緊急性の有無を判断し、日中同様の対応を行っており、北多摩南部医療圏の二次救急医療機関として、十分に役割を果たしています。



東京都救急車の出動件数
(2020 年度)

救急医療を支える救急隊

コロナ禍では救急医療が崩壊していました。発熱者の救急要請は受け入れ病院が少なく、救急隊は 30～40 病院に電話し、長いときでは 6～10 時間以上搬送先を探していました。病院に電話をするたび同じ内容を何度も話さなければならず、救急車内にはコロナ疑いの患者が苦しみを訴え、救急隊のストレスは計り知れないほど大きかったと思います。しかし、いつも丁寧に患者さんの概要を説明してくださり、当院が受け入れ困難でお断りするときも「ありがとうございました、またよろしくお願いします。」と明るく元気な救急隊の姿勢には頭が下がる思いでした。救急隊の方こそ、患者さんに接する時間が長く、コロナに感染するリスクが高いのにも関わらず、メディアにもほとんど取り上げられず、感謝を伝える場面が少ない気がします。また自宅や屋外で痛みや苦しみを感じ不安感が強い患者さんが、救急隊により速やかに病院に搬送され、医師の診察を受けたあと、非常に安堵した表情になるのを数多く見てきて、救急医療の意味や大切さを常日頃感じています。



我々病院スタッフも救急車を利用する市民の方も、救急隊の活動に感謝しながら、今後とも連携をとりスムーズな患者搬送に取り組んでいきたいと思っています。



我々病院スタッフも救急車を利用する市民の方も、救急隊の活動に感謝しながら、今後とも連携をとりスムーズな患者搬送に取り組んでいきたいと思っています。